

## 日本語弁論基礎（1）講義メモ⑤

### 1. スピーチの構成

#### スピーチの構成の基本

作文 → 2段構成が基本、意見文では3段構成でもよい

スピーチ → 3段構成が基本、個人的なテーマでは2段構成でもよい

ショートスピーチ（1～3分程度の短いスピーチ）では3段構成を意識すると失敗しにくい

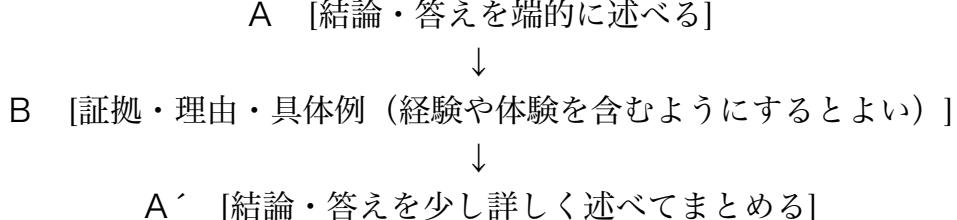
→最初に結論を述べることで、聞き手も安心して聞くことができる

→結論がわかっているので、うまく話せないときにも大意が伝わる

→最初に結論を言っているので、時間切れを心配しなくてもよい

#### 3段構成とは

3段構成の基本的なスタイルは次のようになる。



スピーチの場合は、最も基本となる3段構成から A または A' を省略すると2段構成になると考えればよい

※2段構成は、個人的なテーマの場合など、結論の重要性が低い場合、具体的な体験などについて話す場合に用いることができる

### 3段構成の例

例題：「あなたが考える台湾社会の問題は何ですか？また、その問題を解決するにはどうしたらいいと考えますか？」

構成：

A 《まず自分の意見を述べる》

私が考える台湾社会の問題は、所得の格差が大きいということです。格差を小さくするために、税制を改革するべきだと思います。

B 《具体例を挙げながら理由を述べる》

私の家は貧乏なので、アルバイトをしなければ学校に通うことができません。本当は、もっと勉強したいんですが、アルバイトが多くて思うように勉強できません。私の成績が悪いのは、遊んでいるからじゃないんです。アルバイトが多すぎるんです。本當です。信じてください。……それに比べて、私の友達のゼンさんは、家がお金持ちなのでアルバイトをしてません。でも、彼は勉強もしないんです。毎日遊んでばかりです。本當です。しかも、家が金持つだから将来の心配もしていません。本當です。でも、これでは不公平というものです。それでは、みんな勉強する気がなくなってしまうかもしれません。わたしも、最近、勉強する気がなくなってきた気がします。でも、ちょっとだけですから、安心してください。まだまだやる気はあります。だから、私はこう主張します。それは、……息子が遊んでばかりいる金持つには高い高い税金をかけること。息子が遊べなくなるほどとっちゃってください。そして、そのお金を、貧乏だけどやる気のある学生の奨学金にするんです。そうすれば、みんな安心して勉強できます。そして、なんかすごいものとか発明したりするかもしれません。でも、わたしのように貧乏が理由で成績の悪い学生もいるので、奨学金に成績の条件はつけないでほしいです。……お願いします。

A' 《もう一度自分の意見を述べてまとめる》

私たち学生の場合だけでなく、台湾の社会は所得の格差が大きすぎると思います。格差を放置すれば、社会は必ず悪い方向に向かっていくと思います。そうならないために、税制を改革して、金持つからとったお金を貧乏人に配るように主張して、私のスピーチを終わりります。

### スピーチの初めかたと終わりかた

◇スピーチの冒頭では、自分の意見や考えをはっきりと述べる

「私が考える…は～です。」「私の…は～です。」「私のへだと思います。」

◇スピーチを終るときには、終わりであるとはっきりわかるようにする

「以上でスピーチを終わります。」「以上です。」「ありがとうございました。」

→終わりを明示することでスピーチを完結（完成）したものにすることができる

※話の途中で時間が来てしまっても「終わります。ありがとうございました。」

といえば、中途半端に終わったものではなくなる